

## 志比線刻磨崖仏：志比線刻磨崖仏の概要

志比の磨崖仏とは、永平寺の入り口近くの志比の32メートルもの磨かれた岩に線刻された仏様の彫刻の集まりである。慈悲の観世音菩薩が2体、子供達の守護仏で地獄で苦しむ衆生の救世仏として知られる地藏菩薩7体のお姿が見られる。9体の彫刻は、1504年から1520年の間に、二、三人の素人の画家によって刻まれたと考えられている。それぞれの彫刻画はすべて僧侶から依頼され、刻まれた。画像は沈み彫りで彫られている。つまり、作者は岩を削って浅浮彫りにするのではなく、石の表面に直接線を彫り込んでいる。

線刻は、国中の領主たちが戦いあった戦国時代（1467～1568）に作られ、この戦いは広範な社会的混乱を引き起こした。永平寺周辺地域でもいくつかの農民の暴力的な反乱があった。隣接する加賀（石川県南部）は、農民の大規模な蜂起によって地方領主が倒された後、「農民が支配する地域」として知られている。しかし紛争に巻き込まれたのは農民や武士たちだけでなく、庶民や僧侶達さえも反乱の影響を受けたのである。線刻画を依頼した寄贈者たちの動機を説明する資料は残っていないが、寄贈者は安全と不安が終わるのを祈願したのではなかっただろうか。